

令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 小林市 (都道府県： 宮崎県)

1. 当該地域の情報 (令和 2年 3月現在)

地域の課題	本市人口に占める外国人住民の比率は現在1.28%であり、この10年間で約2倍に増えている。近年、国内では、慢性化する人手不足により外国人人材に対する労働力としての期待が高まっているが、本市も例外ではなく、実際に技能実習や特定技能を有する外国人住民が増加傾向にある。また、本市ではここ数年、火山噴火や台風被害などの自然災害が発生している。これらの災害に慣れていない外国人住民は、いざという時に的確な行動をとることができないと予想されることから、災害時の情報伝達・共有体制の検討が急務である。 2017年に外国人住民を対象としたアンケート調査を実施した結果、外国人住民は、本市での生活において日本語が通じないことに不便を感じていることが分かった。さらに詳しくみると、技能実習生は言葉が通じないこと自体に不便を感じており、一方永住者や日本人の配偶者等は災害時の対応や育児の分野で困難を抱えている状況が明らかになった。本市の生活において外国人住民が不便を感じている部分は、在留資格によって異なる可能性が高いと言える。このような背景から、本市では技能実習生とそれ以外の外国人住民への地域日本語教育をそれぞれに検討することとした。 本市のように外国人住民の80%以上が技能実習生である地域においては、技能実習生を対象とする日本語教室へのニーズも高いが、一方で3年以上本市で生活する外国人住民からは日本の習慣を学ぶ教室へのニーズもあり、これら2つのニーズへの対応の仕方が課題である。それと同時に、増加傾向にある外国人住民を地域社会の一員として受け入れるため、受け入れの基盤となる日本人住民の多文化共生意識の啓発の仕方も課題である。
在住外国人数 外国人比率	557人(2020年4月1日)1.28% 総人口43,451人
在留外国人の 状況	【主な国籍】 22か国から来日、在住している。(2020年4月1日現在) 1位 ベトナム(275人)、2位 中国(99人)、3位 フィリピン(74人)、4位 ミャンマー(50人)、5位 インドネシア(14人)、6位 アフガニスタン(9人)、7位 カンボジア(8人)、7位 韓国(5人)、9位 ネパール、タイ(3人) 【在留資格】(2020年4月1日現在) 1位 技能実習生2号口(259人)、2位 技能実習生1号口(148人)、3位 永住者(62人)、4位 技能実習生3号口(23人)、5位 日本人の配偶者等(17人)、6位 定住者(13人)、7位 家族滞在(9人)、8位 技術・人文知識・国際業務(7人)、9位 技能、興行(各5人) 【滞在年数・在留期間などの状況】 (2020年4月1日) 1～3年の滞在年数では、技能実習1号口と2号口が407人(85%)を占め、4年以上の滞在では、永住者が16人(47%)、日本人の配偶者等が7人(21%)、家族滞在が5人(15%)となっている。10年以上滞在している外国人住民では、永住者が42人(93%)、定住者が2人(4%)、日本人の配偶者等が1人(2%)となっている。 2018年11月1日現在と比較すると、4年以上滞在している永住者が10%増加し、日本人の配偶者等が7%増加している。また、10年以上滞在している外国人住民では永住者が5%増加し、日本人の配偶者等が2%増加している。在留資格で認められた範囲で就労できる在留資格の在住外国人は、3年未満の滞在年数であるのに対し、制限なく働くことができる在留資格を取得している外国人住民が増加傾向にあることが分かる。
在住外国人の 日本語教育の現状	外国人住民が個人で同国出身の日本人の配偶者等を対象に日本語勉強会を開催していたが、次第に参加者が減少してきたことから、継続を断念せざるを得なかったというケースが過去にある。 行政としては、外国人住民の増加を受け、2017年度から月に1回程度の間隔で、年6回、外国人住民への生活情報の提供や日本人市民との交流を目的とした「にほんごサロン」という交流活動を実施している。しかし、外国人参加者・日本人参加者の双方のニーズを充足できるところまでには至っておらず、日本語教育の場としては不十分なものである。 本事業と同時期に、2020年3月に「小林市国際化・多文化共生推進計画」を策定し、本市における外国人市民への支援策として「外国人市民の生活を支えるために日本語習得を支援する」と明記し、今後の日本語教育支援の方針が明確となった。

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	2年目
事業の目的	本市の外国人住民を在留資格別に見ると、技能実習生の割合が最も多いものの、永住者や日本人の配偶者等などの様々な在留資格を持つ外国人もあり、その在留資格及び生活環境によってニーズが異なっている。1年目の関係者会議で検討された本市の目指す地域日本語教育の方向性の一つとして今年度は市内在住外国人の約8割を占める技能実習生を対象とした事業を中心に進めていった。 本市が目指す将来の小林市のあるべき姿は、「民族の違いを超えたすべての市民にとって誰もが安心して、快適に過ごせる小林市」である。これを達成するためには、全市民が一丸となって取り組むことが不可欠である。地域の団体・住民に対しても市の外国人施策に対する理解を広く求め、今後の日本語教育の普及に向けた地盤を整備を進めた。このような周知活動を展開すると同時に、平成29年度在住外国人アンケート調査の結果を在留資格別(技能実習生のみ抜粋したもの)に再整理して、市内技能実習生受入れ機関向けアンケート調査を実施した。 この調査から得られた結果をもとに、本市にとって最適なプレ日本語教室のあり方を検討し、今年度は、対象を技能実習生に絞り、本市で生活する外国人住民に必要な日本語習得を支援するとともに、在住外国人を地域社会の一員として受け入れる多文化共生社会形成の施策の一つとして日本語教育を実施した。そして、それをもとに小林市が実現可能な日本語教育のあり方を検討を行った。 なお、以上の事業の実施にあたっては、本市在住の外国人の実態を丁寧に把握することに努め、ニーズに合ったものとなるようできる限り配慮した。
事業の概要	1. 「小林市外国人受入に関するアンケート調査」(企業と関係者の関係性構築・ニーズの洗い出し) 2. 技能実習生受入れ企業に対する「インタビュー調査」(企業と関係者の関係性構築・ニーズの洗い出し) 3. プレ日本語教室活動「KIZUNA」 4. 技能実習生への聞き取り調査(技能実習生と関係者間の信頼関係の構築・ニーズの洗い出し) 5. 「平成29年度在住外国人アンケート調査」結果を在留資格別に抽出(市内技能実習生の現状と課題の洗い出し)

事業の対象期間	令和2年4月～令和3年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	＜キックオフミーティング＞ 2019年5月9日 小林市在住外国人の現状説明及び事業計画書内容の精査を行った。 市職員向け研修の実施を決定した。 ＜市職員向けアンケート実施＞ 2019年7月 ■対象：小林市役所 全課 ■結果概要：在住外国人の来庁が多いのは、市民生活に密着した部署（健（検）診、予防接種、保育園事業、転入転出、税など）であることが分かった。一方、在住外国人との関わりが少ない部署の職員は、多文化共生や在住外国人支援に関する意識が高くなく、職員の意識啓発が必要であることが分かった。 ＜市職員向け研修＞ 2019年7月31日 ■内容：「日本語がほとんど話せない外国人の日本語をどう聞くのか」 ■講師：アドバイザー（深江新太郎氏） ※参加者アンケートの結果、「外国人対応のための研修であったが、あいづちや判断の保留など、外国人対応に限らず日頃の職場でのやりとりにも有効だと感じた。」など、普段の業務においても研修のテーマである「相手の話を聞く」ことを応用したいというコメントが多くみられた。また、在住外国人への対応についてさらに実践的な研修を望む声があった。			
	＜市民向け講座＞ 2019年11月10日 ■内容：「異文化をもつ人たちとともに暮らす社会を目指して」 ■講師：シニアアドバイザー（平高史也氏） ※前半は講義形式、後半はワークショップ形式で実施した。ワークショップでは、今後の地域日本語教育の方向性と多文化共生に関する支援の在り方を考える上で、核になるような意見が多数出た。（これから、本市で外国人と日本人がともに暮らすために大切なことは、言葉の壁を乗り越えるための「日本語学習の場」をつくることである。等） ※参加者は、本市における地域日本語教室の開催に向けて日本語教育のボランティアスタッフなど核となる可能性が高い方々であることから、今後、日本語教育スタートアッププログラムに協力してもらえるような体制づくりを展開していく必要がある。 ※本講座で明確になったのは、「在住外国人」という枠組みでは一括りにできない、各人なりの日本語教育に対するニーズがあるということである。今後、市としてどういった地域日本語教育を目指していくのか、方向性を明確にしていける必要がある。			
	＜コーディネーター会議・関係者会議＞ ・キックオフミーティング(2019年5月9日) ・第1回関係者会議(2019年5月9日) ・第2回関係者会議(2019年8月21日) ・第3回関係者会議(2019年11月11日) ・第4回関係者会議(2020年1月10日) ・第1回コーディネーター会議(2019年5月13日) ・第2回コーディネーター会議(2019年7月22日) ・第3回コーディネーター会議(2019年8月6日) ■検討結果 アドバイザー会議及びコーディネーター会議において、ビジョンの共有を図るとともに、様々なアドバイスを受けながら検討を重ね、今後の小林市の地域日本語教室の対象者、開催時期、開催場所等について大まかな方針が定まってきたところである。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	李 妍			日本語教室活動に関する業務（準備・補助等、教室活動記録・振り返り） 学習者のニーズ把握
	田中 利砂子	南九州短期大学/国際教養学科	講師	学習内容検討への助言 学習者のニーズ把握への助言
	満留 由紀子	地方創生課	国際化推進コーディネーター	事業全体のコーディネート 地域のリソース等の把握 地域の外国人の状況の把握 行政・関係機関との連絡調整
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	平高史也	慶応義塾大学	名誉教授	継続 新規（2年目）
	深江新太郎	NPO多文化共生プロジェクト	代表	継続 新規（2年目）
	高柳香代	多文化共生ネット 移住労働者と共に生きるネット ワーク・九州	主宰 多文化社会コーディネーター	継続 新規（2年目）

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制

検討体制	意思決定 コーディネーター サポートチーム 小林市 地方創生課長 主幹 田中 利砂子 満留 由紀子 李 妍 シニアアドバイザー アドバイザー 小林市地方創生課は事務局として最終的な意思決定を行うとともに、関係者会議を組織し、外部有識者であるサポートチームの助言のもと、コーディネーターの意見も聞きながら目指すべき日本語教室の在り方について検討する。		
	所属(担当課)	担当者名	職名
	NPO多文化共生プロジェクト	平高 史也	名誉教授
	NPO多文化共生プロジェクト	深江 新太郎	代表
	移住労働者と共に生きるネットワーク・九州	高柳 香代	多文化社会コーディネーター
	宮崎大学	小松 圭二	学生支援部長
	南九州短期大学	田中 利砂子	講師
	-	李 妍	-
	小林市地方創生課	森岡 康志	課長
	小林市地方創生課	池北 諭子	主幹
	小林市地方創生課	満留 由紀子	国際化推進コーディネーター

(2)日本語教室の実施に向けた事業運営体制図

地域の機関・団体との連携体制

アドバイザー、日本語教育専門家

小林市

コーディネーター

各種組織

地方創生課

商工観光課

市民課

外国人雇用企業

商工会議所

在住外国人

本市の現況に最も適した日本語教育をつくり上げるために現状把握と問題点の明確化を行い、本市が実現可能な日本語教育のあり方を検討する。まずは、本市関係各課の連携を促進するために、アドバイザーの助言とコーディネーターのサポートのもと、市政における外国人施策の重要性の周知を図る。

さらに、地域で在住外国人と関わりのある企業・団体・住民に対しても市の外国人施策に対する理解を深めるための周知活動を行うとともに、今後の日本語教育の普及に向けた基盤を整備するためのニーズ調査を実施する。なお、この際、アドバイザーと日本語教育専門家で助言、サポート等をしていく。

組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
NPO多文化共生プロジェクト	-	名誉教授	平高 史也
NPO多文化共生プロジェクト	-	代表	深江 新太郎
移住労働者と共に生きるネットワーク・九州	-	多文化社会 コーディネーター	高柳 香代
東海大学	国際教育センター	元教授	関 正昭
志學館大学	-	名誉教授	新内 康子
南九州短期大学	国際教養学科	講師	田中 利砂子
宮崎県	オールみやざき営業課国際交流担当		
小林市	地方創生課	課長	森岡 康志
小林市	地方創生課	主幹	池北 諭子
小林市	地方創生課	国際化推進 コーディネーター	満留 由紀子
小林市	商工観光課		鶴田 健介
小林市	市民課	主幹	黒仁田 裕介

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和2年 4月	「平成29年度在住外国人アンケート調査」結果を在留資格別に再整理(4～7月)	*在住外国人アンケート調査再整理	
令和2年 5月	市内事業所リスト作成	*在住外国人アンケート調査再整理 *企業向けアンケート項目の作成 *計画書作成準備	
令和2年 6月	「小林市外国人雇用に関する企業アンケート調査」準備 第1回コーディネーター会議(2020年6月1日～6月5日:メール協議) 第1回関係者会議(2020年6月12日:Zoom会議)	*在住外国人アンケート調査再整理(学習者の属性・生活課題の把握) *企業向けアンケート項目の作成 *計画書作成準備・作成・提出	Zoom会議 平高氏(1回) 深江氏(1回) 高柳氏(1回)
令和2年 7月	「小林市外国人雇用に関する企業アンケート調査」準備 市内企業向けインタビューについて検討	*在住外国人アンケート調査再整理 *企業向けアンケート項目、データセットの作成 *技能実習生受入れ企業向けインタビュー項目検討 *インタビューする事業所を市役所担当課と検討	
令和2年 8月	プレ日本語教室開催準備 技能実習生受入れ企業訪問・ハローワーク訪問	*地域のリソース把握、教室の目的や設置場所等の検討、学習者のニーズに合わせた学習内容・順序・時間、教室活動などについて検討 *市役所担当課と企業の選択を行い、事業所へお願いの挨拶 *ハローワークで外国人労働者の現状についてヒアリング	Zoom(第2回コーディネーター会議で行う研修の打合せ) 深江氏
令和2年 9月	「小林市外国人雇用に関する企業アンケート調査」:実施 第2回コーディネーター会議 第3回コーディネーター会議	*アンケート用紙郵送 *集計のためのデータセット作成 *教室のコンセプトをコーディネーターで共有、コンセプトと教室名を決定	Zoom(地域日本語教室のコンセプト設定のためのアドバイス) 深江氏
令和2年 10月	「小林市外国人雇用に関する企業アンケート調査」:アンケート集計・分析 プレ地域日本語教室準備	*アンケート集計、データ入力 *第1回プレ日本語教室の開催準備(学習者のニーズに合わせた学習内容について検討)	
令和2年 11月	実施団体情報交換会(11月2日) 「小林市外国人雇用に関する企業アンケート調査」:アンケート集計 プレ地域日本語教室準備 第1回プレ地域日本語教室(11月22日) 第2回プレ地域日本語教室(11月29日)	*アンケート集計、データ入力 *第1回、第2回プレ日本語教室の開催準備(学習者のニーズに合わせた学習内容について検討) *企業先担当者との打合せ、教室設定準備と受付等	
令和2年 12月	「小林市外国人雇用に関する企業アンケート調査」:アンケート集計 第2回関係者会議(12月7日) 第3回プレ地域日本語教室(12月13日) 第4回プレ地域日本語教室(12月20日)	*アンケート集計、データ入力、報告書作成準備 *地域日本語教室実施報告及び運営検討 *第3回、第4回プレ日本語教室の開催準備(学習者のニーズに合わせた学習内容について検討) *企業先担当者との打合せ、教室設定準備と受付等	Zoom会議 平高氏(2回) 深江氏(2回) 高柳氏(2回)
令和3年 1月	第3回関係者会議(1月13日) プレ地域日本語教室準備 「小林市外国人雇用に関する企業アンケート調査」:アンケート集計、報告書まとめ	*今年度の事業報告と来年度事業の計画について協議 *第5回プレ日本語教室の開催準備(学習者のニーズに合わせた学習内容について検討) *アンケート集計、報告書作成	Zoom会議 平高氏(3回) 深江氏(3回) 高柳氏(3回)
令和3年 2月	第5回プレ地域日本語教室(2月14日)最終回 コーディネーター情報交換会(2月16日) 「小林市外国人雇用に関する企業アンケート調査」:アンケート集計、報告書まとめ 令和2年度本プログラム報告書作成 令和3年度養成講座開催に向けて宮崎県、宮崎県国際交流協会と協議(2月18日)	*企業先担当者との打合せ、教室設定準備と受付等 *コーディネーターの役割について他自治体とZoom会議で共有 *アンケート集計、報告書作成 *本年度の事業報告書作成準備 *来年度のサポーター養成講座事業内容について協議	
令和3年 3月	令和2年度本プログラム報告書作成	*本年度の事業報告書作成準備	

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称			地域日本語教室KIZUNA				
外国人参加者について			[国籍]ベトナム30名, ミャンマー5名 [属性]技能実習生が対象			参加者数 (内 外国人数)	受講者35 名 (日本語指導者 1名、 サポーター 5名)
開催時間数			総時間 7.5 時間		内訳 1.5 時間 × 5 回		
目標			生活ツールとしての地域日本語教育を中心に、対話学習を通して地域住民との関係性の構築とその人らしさの実現を目指す				
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2020年11月22日(日曜) 10:00~11:30	1.5	企業施設内	15	オリエンテーション 自己紹介	・主催者あいさつ ・教室参加の説明 ・名札づくり ・自己紹介のための日本語	日本語指導者1名 スタッフ／サポーター5名
2	2020年11月29日(日曜) 10:00~11:30	1.5	企業施設内	16	わたしのまち	・レベルチェック(セルフチェックシート) ・市内の主要な施設について紹介 ・市内マップを見ながら参加者とスタッフが対話(観光、病院、市役所、コミュニティセンターなど) ・グループワークで話したことを全体で共有	日本語指導者1名 スタッフ／サポーター5名
3	2020年12月13日(日曜) 10:00~11:30	1.5	企業施設内	14	たのしいおまつり	・アイスブレイク ・祭りに関する言葉の練習 ・市のイベント、祭りについて紹介 ・お祭りについて対話 ・全体で共有	日本語指導者1名 スタッフ／サポーター5名
4	2020年12月20日(日曜) 10:00~11:30	1.5	企業施設内	12	ゆく年くる年	・日本の年末年始の風習紹介(正月飾り、年賀はがき、年末年始の挨拶、初詣など) ・年末年始の挨拶の練習と技能実習生のお正月について対話(グループワーク) ・書道体験(筆の使い方、名前の練習、年賀状作成)	日本語指導者1名 スタッフ／サポーター4名
5	2021年2月14日(日曜) 10:00~11:30	1.5	企業施設内	14	教室活動のふりかえり	・教室の振り返り(教室活動をまとめたスクラップブックを使用) ・アンケート(ベトナム語とミャンマー語に翻訳)実施:教室に参加しての感想と要望 ・主催者あいさつ ・修了証授与式	日本語指導者1名 スタッフ／サポーター5名

【主な活動】



第1回ブレ地域日本語教室の様子
(スタッフ紹介)



第4回ブレ地域日本語教室の様子
(書道体験・年賀状作成)



第5回(最終回)ブレ地域日本語教室の様子
(これまでの教室活動のふりかえり)

教室の立ち 上げに係る 問題とその 対応策	・コロナ感染拡大防止のため、企業数を制限したことにより、その他の技能実習生を対象にすることができなかった⇒来年度は、在留資格に関係なく参加できるよう募集を行う予定 ・参加者のニーズが多岐にわたり、すべての参加者のニーズに応えることは難しいと実感した⇒教室の参加者に目的と活動内容をさらに行うことと、対応できない要望(例えば、日本語能力試験のための準備)に関しては、県の国際交流協会と連携して必要な人へと繋げていく ・散在地域のため、教室の場所が重要になってくる⇒中心地で行う教室とアウトリーチで行う教室のバランスを検討していく ・教室を行うにあたって、日本語教師1名では負担が大きく、継続して教室を開催するには検討が必要⇒来年度の事業で、もう1人日本語教室を運営する人材を発掘する ・コロナ感染拡大防止のため、市民の支援者に参加してもらうのが困難になり、スタッフだけで対応した⇒来年度のサポーター養成講座を実施し、人材を発掘する
--------------------------------	--

5. 今年度事業全体について

進捗状況	概ね予定どおり進めることができた。今年度、柱とした事業は以下のとおりである。 ・「平成29年度在住外国人アンケート調査」結果を在留資格別に再整理(2020年～7月) 内容:「平成29年度在住外国人アンケート調査」結果を在留資格別に再整理し、アドバイザー、コーディネーターと共有 配布数:439件 回答数:180件(回答率41%) 結果概要:技能実習生は、言葉が分からず苦労していることが明確になった。特に、病院での医師や看護師とのやり取りが難しいと回答した。また、日本語の勉強は独学で行うか、仕事が忙しく現在は行っていないと回答した。 ・技能実習生受入れ企業向けアンケート(2020年～12月) 内容:市内企業向けアンケートリスト作成(5月)、・企業向けアンケート項目の作成、郵送準備にかかる事務処理(7月～8月)、アンケート回収期間(9月4日～9月30日)、アンケート集計(9月～)、アンケート中間報告書作成(12月)を行った。 配布数:362事業所 回答数:154事業所(回答率40.2%) 結果概要:農業・製造業で技能実習生を雇用していると回答した。雇用に際し直面した課題として、日本語力不足と回答した。次いで、コミュニケーション能力、文化・価値観・習慣の違い、と回答した。今後も技能実習生雇用に関して同程度、もしくは微増の予定と回答があったことから、今後も本市における技能実習生の増加が見込まれる。 ・技能実習生受入れ企業ヒアリング(6月23日、8月25日、10月26日) 内容:プレ地域日本語教室の開催準備のため市役所担当課と企業の選択を行い、事業所へ事業の趣旨説明と協力をお願いを行った。 結果概要:技能実習生の中でも様々なニーズがあることを雇用主が説明。また、本市が技能実習生対象に日本語教室を開催することに前向きに考えて受け止めておられる様子で、訪問した企業の雇用主は協力的であった。 ・プレ地域日本語教室「KIZUNA」開催 各月2回開催(計5回)(11月～2月) 内容:11月(2回)「初めまして(自己紹介)」「わたしのまち」 12月(2回)「たのしいおまつり」「ゆく年くる年」 1月 コロナのため中止 2月 教室活動のふりかえり 参加者:市内の技能実習生35名(ベトナム国籍:30名、ミャンマー国籍:5名) まとめ:教室参加者はひらがな、もしくはふりがながあると、配布プリントを理解することができるようであった。しかし、参加者の中には特定技能を目指す人や、大学進学を目指す人もおり、日本語レベルは多岐にわたった。また、体験型の活動や、グループでの対話の時間は会話も増え、積極的に参加する場面も見られたことから、情報提供の場だけでなくコミュニケーションの場面も教室の活動に組み込んでいくことも重要だと改めて実感した。 ・関係者会議・コーディネーター会議 検討内容:アドバイザー会議及びコーディネーター会議では、地域日本語教室のコンセプトの共有と今後の小林市の地域日本語教室の対象者、開催時期、開催場所等について検討を重ねた。 <u>本市地域日本語教育の目指す方向性</u> 目標:生活ツールとしての地域日本語教育を中心に、対話学習を通して地域住民との関係性の構築とその人らしさの実現を目指す。 教室の役割:「自分らしさを表現できる」「つながる」「生活に必要な情報が得られる」 対象者:本市で生活する外国人市民と日本人市民
事業推進にあたり問題点と対応策	「教室の立ち上げに係る問題とその対応策」に明記
成果	2年目は、技能実習生受入れ企業向けアンケートを実施し、全企業把握はできていないが回答した市内企業の現状や課題が明確になった。 また、プレ地域日本語教室開始前に、アドバイザーによるコーディネーター研修を実施した。市担当者(2名)、コーディネーター(3名)と小林市の地域日本語プレ教室の目指すべき方向性について共通の認識を持てた。研修後、コーディネーターと市担当者と協議を重ね、教室のコンセプトを文字化し教室名も決定した。 今年度は、技能実習生を対象にしたことから、企業訪問を行う際、市担当職員・課長とじっくりと協議し運営側の意識を共有でき、企業訪問に行く際に明確に小林市の目指す地域日本語教室について説明ができた。そして、実際に企業へ訪問を重ねて、関係性の構築ができたことは大きな成果である。 プレ教室開催にあたっては、コーディネーターとして市担当者が丁寧に協議を重ね、カリキュラムや学習プリントを作成できた。また、それに付随して、様々な教材(スライド、パワーポイント、学習プリントなど)を用いることによって、参加者やスタッフとの対話が生まれた。
地域の関係者との連携による効果	上記にも記載したとおり、技能実習生を雇用している企業との面会を通して、現状とニーズの把握ができ、さらに教室開催にあたっては、施設内の場所を借りたり、技能実習生への教室参加への声かけも企業担当者が積極的に行ったことで、教室への継続的な参加が見られたことも、企業の理解が大きな要因といえる。
コーディネーターの主な活動	2年目である2020年度は、地域日本語教室と多文化共生の推進、また参加型活動や相互理解を推進するために、小林市の目指す地域日本語教室のコンセプト等について、コーディネーターとして担当課と検討を重ねた。その結果、共通の認識を持つことができ、教室の役割、目的、教室名を確定することができた。

アドバイザーの 主な助言	・日本語教師の役割の明確化 ・県の事業と連携して地域住民の中から日本語教師への協力要員を育てていくこと ・オンラインを活用した教室活動を検討 ・技能実習生が実際に働いている企業に向けて企業向けアンケートを送付すること ・来年度以降の教材について（オリジナルを使用するのか、市販のものを使用するのか検討する必要がある） ・対話活動をメインにした養成講座は県で行ったことはないので、早い時期からしっかりと連携されたほうがよい ・4年目以降の教室開催について考えておく必要がある（道筋をつけておく必要がある。誰が、どこで、どうやって行うのか。特に財源。） ・宮崎県の整備事業と連携をすることも検討したほうがいい
今後の課題	・外国人市民の多様なニーズにどのように対応していくのか（横連携が必要） ・地域日本語教室を実際に行う人材をもう1人発掘し、育成していくためのより具体的なプロセスの検討 ・3年目以降の継続した教室運営をどのように行っていくのか（人材、モノ、予算など） ・少ないマンパワーでできる地域日本語教室の運営方法とは（継続させるためにも、無理のない効果的な方法で地域日本語教室を運営していくことが大事）
今後の予定	・定住する在住外国人関係者との関係構築・ニーズの明確化（アンケート調査） ・地域住民とのローカルミーティング（茶話会） ・地域日本語教育日本語教室コーディネーター講座（仮） ・地域日本語教室サポーター養成講座 ・地域日本語教室と参加者への聞き取り調査（日本語教室最終回）

本件担当

:

小林市役所地方創生課戦略推進グループ